

水痘（みずぼうそう） 予防接種説明書

予防接種を受ける前に以下をよくご覧ください。わからないことは接種を受ける前に医師にご質問ください。

【どんな病気？】

水痘帯状疱疹ウイルスの空気感染（ウイルスが空気中に飛びだし、人に感染すること）、飛沫感染（咳やくしゃみ等により感染すること）、接触感染（皮膚や粘膜の直接的な接触、または病原体の付着したタオルや容器などに触れることにより感染すること）によっておこる病気です。感染力が強く 9 歳以下での発症が 90%以上を占めるといわれています。

潜伏期間は 2 週間程度で、発疹、発熱が主な症状です。発疹は最も特徴的で、顔面、胸腹部、頭部に次々に点々とあるいは集中的に現れ、発疹は紅斑（皮膚の表面が赤くなること）から始まり、水疱、膿疱（粘度のある液体が含まれる水疱）を経て痂皮化（かさぶたになること）して治癒するといわれています。一般に水疱の数は症状が出てから数日以内に 250～500 個以上に達します。発熱は通常 38℃前後で 2～3 日続きますが、40℃を超えることもあり、その際に熱性けいれん（ひきつけ）を合併することがあります。

我が国では年間 100 万人程度が発症し、4,000 人程度が入院、20 人程度が死亡していると推定されています。成人での水痘も稀に見られますが、成人に水痘が発症した場合、水痘そのものが重症化するリスクが高いといわれています。

【どんなワクチン？】

弱毒化された水痘・帯状疱疹ウイルスを凍結乾燥させた生ワクチンです。予防効果は、通常 80～90%以上の抗体陽性率が認められており、水痘ワクチンの 1 回の接種により重症の水痘をほぼ 100%予防でき、2 回の接種により軽症の水痘も含めてその発症を予防できると考えられています。2014 年 10 月からは定期接種も始まりました。

また、2016 年 3 月には 50 歳以上の方に対する帯状疱疹の予防という効能効果が追加されています。ワクチンを接種することにより、帯状疱疹の発症率を低減させ、重症化を予防することができるとされています。

【副反応は？】

一定の頻度で見られる副反応については、過敏症（接種直後から翌日に発疹、蕁麻疹、紅斑、そう痒、発熱等）、局所症状（発赤、腫脹、硬結等）、全身症状（発熱、発疹）があらわれることがありますが、一過性で通常、数日中に消失するとされています。

また、稀にみられる重い副反応としては、アナフィラキシー様症状（接種後 30 分以内に出現する呼吸困難等の重いアレルギー反応のこと）、血小板減少性紫斑病等があります。

【その他】

平成 28 年 3 月から現在まで水ぼうそうの予防目的で使われていた乾燥弱毒生水痘「ビケン」ワクチンが、50 歳以上の方に限って、帯状疱疹の予防にも使用することが承認されました。

【参考】

帯状疱疹とは、水痘・帯状疱疹ウイルスが原因の痛みを伴う皮膚発疹のことです。身体の一部（一般に身体の左右どちらか一方）にちくちく、またぴりぴりと刺すような痛みを感じることから始まり、赤い斑点と水ぶくれが帯状にあらわれます。水ぶくれが枯れてかさぶたとなり、それが取れるようになれば治癒しますが、その期間は3週間から1か月間かかるといわれています。小児期に罹患した水痘は、治った後もそのウイルスは体内から消失することなく、長期間（数十年間も）潜伏しています。潜んでいたウイルスは、加齢やストレス、過労、生活習慣などにより免疫力が低下すると再び活動し、神経（顔面の三叉神経、脊髄神経、坐骨神経など）を伝わって皮膚に到達し、帯状疱疹として発症します。一般的には 50～70 歳代の高齢の方に多い疾患です。

【接種対象年齢・回数・間隔等】

① 定期接種（大阪市の場合）

予防接種名		対象年齢	標準的な接種年齢	回数	接種間隔
水痘（みずぼうそう）※1	1回目	生後 12 から 36 か月に至るまで	生後 12 から 15 か月に至るまでの間	2 回 ※2	3 か月以上の間隔をあけて 2 回
	2回目		1 回目終了後 6 から 12 か月に至るまでの間隔をおいて 1 回		

※1 平成 26 年 10 月から水痘は定期接種になりましたが、すでに水痘にかかったことのあるかたは対象外となります。

※2 すでに任意接種として水痘ワクチンの接種を受けたことがある方は、接種した回数分を受けたものとみなします。

② 任意接種

予防接種名	回数	間隔	当センター接種料金
水痘（みずぼうそう）	2 回	1 回目接種から 1～数年後に 2 回目接種	1 回 ¥8,000

☆次頁の各ワクチン共通の説明書も、必ずご覧ください。

各ワクチン共通の説明書

1. 一般的な注意

- (1) 受ける予防接種について、この予防接種説明書をよく読んで、必要性や副反応についてよく理解してください。わからないことは予防接種を受ける前に質問してください。
 - (2) 接種当日は、母子健康手帳を持ってきてください。(成人で母子健康手帳のない場合は結構です。)
- ◎受けられる方がお子さんの場合については、保護者の方は以下の点についても特にご注意ください。
- (1) 当日は体温を計り、朝からお子さんの状態をよく観察し、普段と変わった様子がないことを確認してください。接種に連れていく予定をしても体調が悪いときはやめてください。
 - (2) お子さんの日頃の状態をよく知っている保護者の方がお付き添いください。
 - (3) 予約票はお子さんを診察して接種する医師への大切な情報です。ありのままに記入してください。

2. 病気にかかった後の接種間隔

麻疹、風しん、水痘、おたふくかぜ等にかかった場合には、全身状態の改善を待って接種してください。医学的には、免疫状態の回復を考えて次の間隔をあけてください。

麻疹 (治ってから 4 週間程度)	風しん、水痘、おたふくかぜ (治ってから 2~4 週間程度)
突発性発疹、手足口病、伝染性紅斑 (治ってから 1~2 週間程度)	普通感冒や上気道炎 (治ってから 1 週間程度)

3. 予防接種を受けることができない人

- (1) 明らかに発熱のある人(明らかな発熱とは、接種場所で測定した体温が 37.5℃以上を指します。)
- (2) 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人。急性の病気で薬を飲む必要がある人は、その日は見合わせるのが原則です。
- (3) 予防接種の接種液の成分でアナフィラキシー(接種後 30 分以内に出現する呼吸困難や重いアレルギー反応のこと)を起こしたことがある人。
- (4) BCG 接種の場合は、外傷などによるケロイドができたことがある人。
- (5) その他、医師が接種不相当と判断した人。

4. 予防接種を受ける場合、医師とよく相談しなくてはならない人

次に該当すると思われる人は、かかりつけの医師がある場合には必ず前もって診ていただき、診断書又は意見書をもってからご来院ください。

- (1) 心臓病、腎臓病、肝臓病や血液の病気及び発育障がいなどで治療を受けている人。
- (2) 予防接種後 2 日以内に発熱及び、全身性の発しんなどアレルギーを疑う症状がみられた人。
- (3) 接種しようとする接種液の成分に対して、アレルギーの症状が出るおそれのある人。
- (4) 今までにけいれん(ひきつけ)をおこしたことがある人。
- (5) 過去に免疫状態を検査して異常を指摘されたことのある人、近親者に先天性免疫不全症の方がいる人。
- (6) 家族、接触のあった友だちなどに、麻疹(はしか)、風しん、おたふくかぜ、水痘(みずぼうそう)などの病気が流行している時で、予防接種を受ける本人がその病気にかかっていない人。感染して潜伏期間(症状が出ない期間)中の場合がありますので、かかりつけの医師と事前によく相談してください。
- (7) BCG 接種については、過去に結核患者と長期に接触があった人、結核に感染している疑いのある人。

5. 予防接種を受けた後の一般的な注意事項

- (1) 予防接種を受けたあと 30 分以内に、急な副反応がおこることがあります。接種後は安静に待機し、体調に変化がないかどうか様子を見てください。
- (2) 接種後は、生ワクチンでは 4 週間、不活化ワクチンでは 1 週間は副反応の出現に注意してください。
- (3) 接種部位は清潔にしてください。入浴は差し支えありませんが、接種した部位をこすることはやめてください。接種当日はいつも通りの生活ができますが、はげしい運動は避けてください。
- (4) 高熱、おう吐、けいれん(ひきつけ)など特に異常な症状があった時には、主治医か休日診療所を受診し、その結果を当センターへご連絡ください。

6. 予防接種の接種間隔

異なる種類のワクチンを接種する際、生ワクチン接種の場合は、ウイルスの干渉を防止するため 27 日以上間隔をあけてください。不活化ワクチン接種の場合は、約 1 週間経てばワクチンによる反応がなくなるため 6 日以上間隔をあけてください。

予防接種の種類	間隔
【生ワクチン】 結核(BCG) 麻疹風しん混合(MR) 流行性耳下腺炎(おたふくかぜ) 水痘(みずぼうそう) ロタウイルス(1 価・5 価) 黄熱	27 日以上の間隔をあける
【不活化ワクチン】 4 種混合(ジフテリア・百日せき・破傷風・ポリオ) 3 種混合(ジフテリア・百日せき・破傷風) 2 種混合(ジフテリア・破傷風) 破傷風 ポリオ 日本脳炎 ヒブ(インフルエンザ菌 b 型) 肺炎球菌(13 価・23 価) HPV(ヒトパピローマウイルス) インフルエンザ A 型肝炎 B 型肝炎 狂犬病 髄膜炎菌	6 日以上の間隔をあける

同時に複数の種類のワクチンを接種後に他の種類のワクチンを接種する場合も上記表のとおりです。なお、同じ種類のワクチンを複数回接種する場合、それぞれのワクチンに定められた接種間隔があります。医師とよく相談したうえで接種を受けてください。